

2016/11/14

柏の景気情報（平成28年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成28年10月分）

○ 調査期間 : 平成28年10月24日 ~ 平成28年11月10日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	72	46.2%
建設	44	19	43.2%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	14	38.9%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成28年10月の調査結果のポイント】

◀業況DIは横ばい推移。先行きは不透明感から依然として慎重な見方が続く▶

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は建設業±0.0(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.7(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲28.5(同△13.3)で、マイナス幅が41.8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲25.0(同▲16.6)である。

【建設業】からは、「鳥取地震も発生して、耐震補強に関心を示す人が増えてきている。」(一般土木建築工事業)、「年明けに新しい畳で家族や親戚を迎えたいという需要から、個人宅からの注文が増加。今後も引き続き受注が好調になる事に期待したい。」(内装工事業)、「景気回復の実感は無く、これから年末に向けて不安感がある。太陽光発電、器具のLED化も足踏みの状況。」(電気工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「オリンピック景気のような要因が無い限りは大きな設備投資に動ける状況にはならないと思われる。インバウンドに関してどのようなアプローチが出来るか模索中。」(印刷業)、「既存の受注は低迷するが、新製品・新規先のニーズは増加。ニーズ・物の動きはあるものの、それに対しどの様にアプローチして行か、HP、展示会、営業等を通じて、如何にして選択される企業になれるかが重要である。」(金属素形材製品製造業)、「五月人形の部品、仏具の部品の受注が多かったので、エッチング部門は連日多忙だった。工業製品も増加傾向だが、新規は少ない。」(その他の金属製品製造業)、「一般事務職の中途採用(1名)を行ったところ、1週間で8名の応募があり、すぐに内定を出す事が出来た。」(一般産業用機械・装置製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「客単価はやや上昇したが客数は減少している。業況は悪化する一方で衣料品不況は深刻である。メーカーは秋物衣料を生産調整しているが、かなり在庫を残した模様。」(婦人・子供服小売業)、「衣料品全体は9月末駅前百貨店閉店セールの影響が残る10月スタートの中、15日頃までの売上は伸び悩むも、月末気温低下もあり感謝セールで売上回復傾向となった。食料品は葉物野菜を中心に価格が高騰し、お客様からも高いという声が多い。カット野菜、冷凍野菜等の売上は多少上がるも全体的には不況状況。柏モディが月末に閉店し、柏駅南口側への集客が見込まれるため、柏駅東口側の店舗の集客が課題。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「大型店の出店が相次ぎ、特売セールが始まり来店客が激減。また、清潔な新店舗は主婦層にも人気で、雇用を奪われている。また、野菜等の食材の値上がりがあり、個人消費が冷え込む中で、より一層利益の確保が難しくなっている。」(その他の飲食料品小売業)、「各企業とも団体旅行の検討、申し込みのタイミングが間際化している。一方で訪日インバウンドが好調。インバウンドで国内大都市のホテル、国際線航空座席が早々に抑えられてしまい、ますます手配が困難になっている。日本全国の名旅館、ホテル、料亭がつくる「おせち料理」販売が好調。企業の社内インセンティブ、福利厚生での利用も。比較的多くの取引先(人材派遣や福祉系)では、人材確保、人材定着、人材育成に、課題感を持っている。」(旅行業)、「そごう柏店閉店の影響を悲観せず、個々の企業が力を発揮できる環境づくりが必要だと思われる。」(不動産賃貸業)、「不動産売買の件数は減少。問い合わせ数も減少し、価格は横ばい状況。現在の景気と連動して、不動産業界も景況はよくない。」(不動産管理業)、などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「長雨の影響で10月の売上は大幅な減少となった。工期を延ばす事は出来ず、天気が回復次第工事を再開するため、施工現場が重なり今までに無い人手不足になっている。現場近隣の状況によって施工時間が決められており、時間外・日曜の施工も出来ず、人手不足は解消されそうに無い。突発的な工事依頼やオリンピック関連の案件も人員確保が出来ず、受ける事が出来ない。」(その他の職別工事業)、「天候不順が尾を引いたまま取り戻せなかった。クリスマス商戦に期待したい。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰(農水産物)

各業種より、「悪天候のため仕入単価が上昇。特に苺が高騰し品薄状態に。」(菓子・パン小売業)、「関東での曇天が続いており、野菜全般に生育遅れがあり、野菜の入荷が激減している。単価は高値取引の商品もあり、消費者の期待に応えられる入荷状況になっていない。秋は行楽シーズンであり、イベントも多くなり消費が拡大する時期だが、大変厳しい状況にある。産地情報をまめに取り、消費者の期待に応えられるように努めたい。」(食料・飲料卸売業)、「天候の影響で開花の遅れ、品薄が発生。仕入れ値も暴騰している。」(花・植木小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安

各業種より、「業務内容は常に新規の作成が多く、受注が安定していないので先行きは見通せない。年間トータルで結果を把握しているが、現在のところは概ね良好である。」(印刷業)、「業界全体に受注減、又、景気後退感がある。」(特殊産業用機械)、「年々厳しい状況が続いており、大企業の設備投資も閉塞感がある。中小企業のアイディア・独自性も出し尽くした感があり、新たなビジネスモデルの構築が求められているように感じる。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
見通し	▲23.6	▲5.2	▲12.5	▲52.1	▲14.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成28年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 2(前月水準▲20. 0)となり、マイナス幅が2. 2ポイント拡大した。

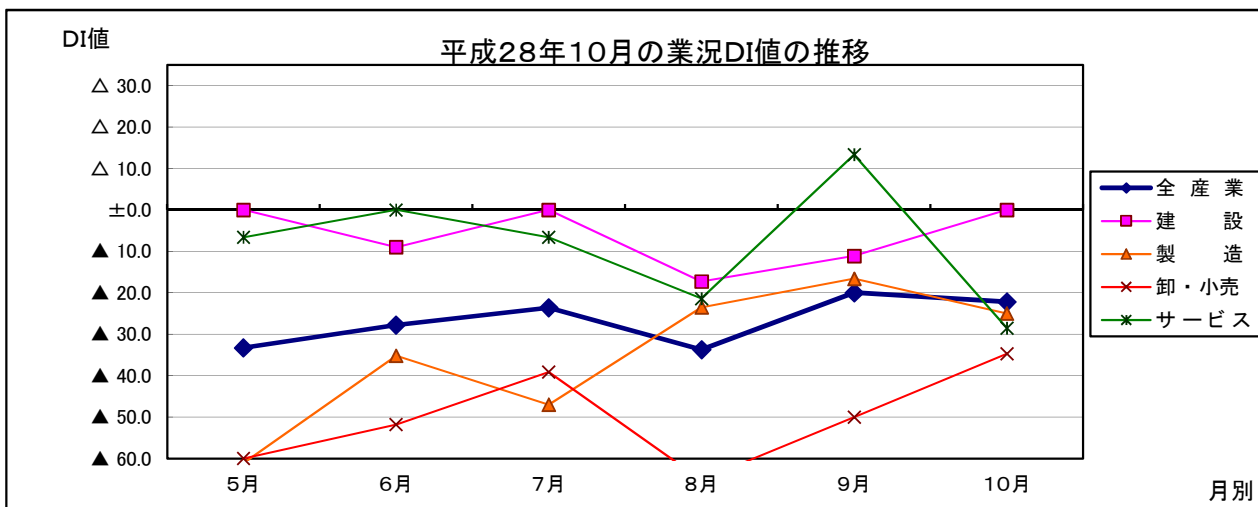
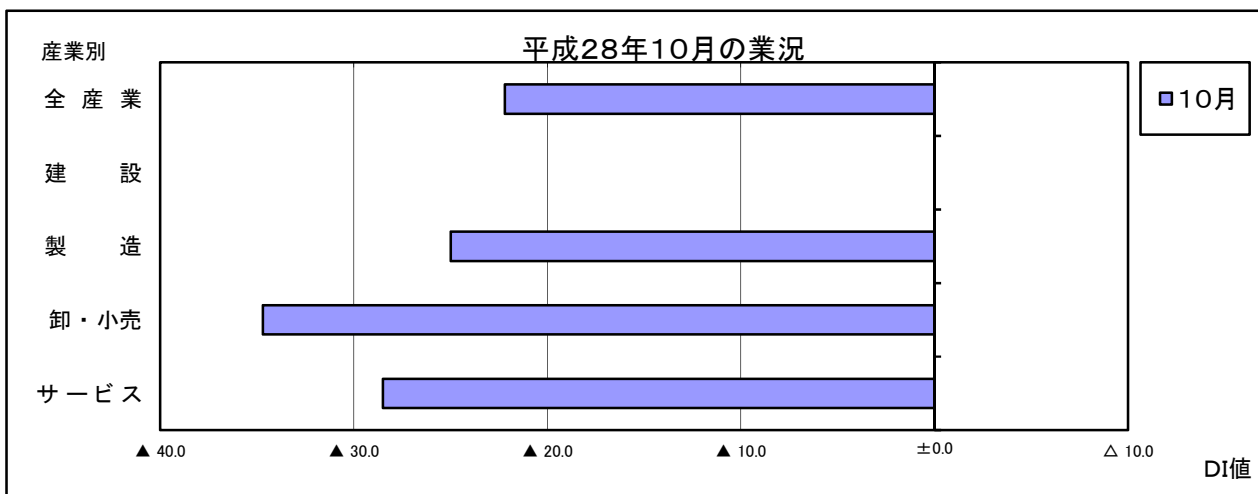
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は建設業±0. 0(同▲11. 1)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲34. 7(同▲50. 0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲28. 5(同△13. 3)で、マイナス幅が41. 8ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲25. 0(同▲16. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23. 6(前月水準▲13. 3)となり、マイナス幅が10. 3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲5. 2(同▲11. 1)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲14. 2(同△6. 6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲52. 1(同▲33. 3)、製造業▲12. 5(同▲5. 5)である。

平成28年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲ 33.3	▲ 27.8	▲ 23.6	▲ 33.7	▲ 20.0	▲ 22.2	▲ 23.6 (▲ 13.3)
建設	±0.0	▲ 9.0	±0.0	▲ 17.3	▲ 11.1	±0.0	▲ 5.2 (▲ 11.1)
製造	▲ 61.1	▲ 35.2	▲ 47.0	▲ 23.5	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 12.5 (▲ 5.5)
卸・小売	▲ 60.0	▲ 51.8	▲ 39.1	▲ 65.2	▲ 50.0	▲ 34.7	▲ 52.1 (▲ 33.3)
サービス	▲ 6.6	±0.0	▲ 6.6	▲ 21.4	△ 13.3	▲ 28.5	▲ 14.2 (△ 6.6)



【平成28年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(同▲22.6)であり、マイナス幅が6.0ポイント縮小した。

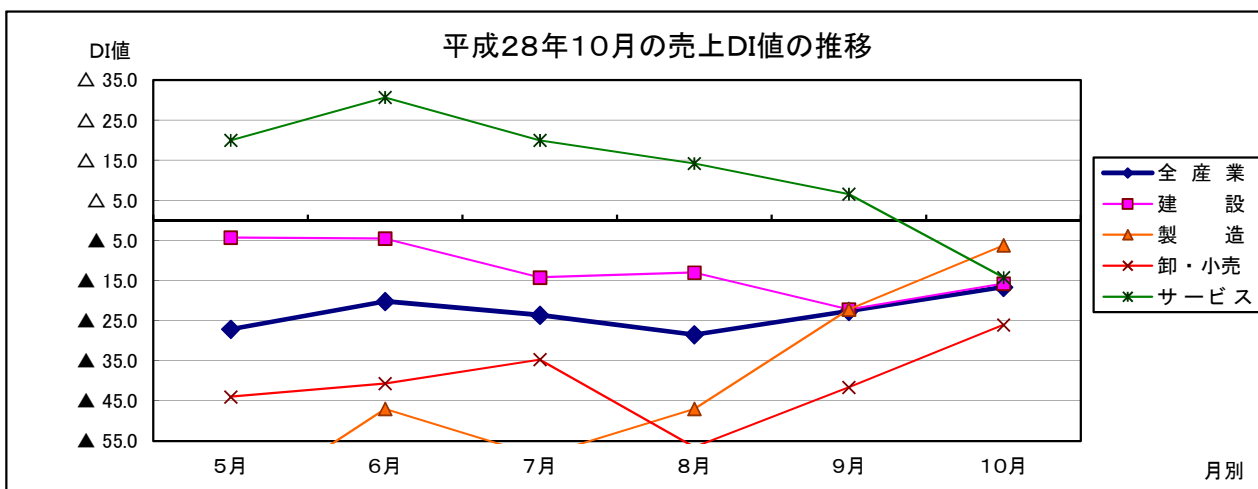
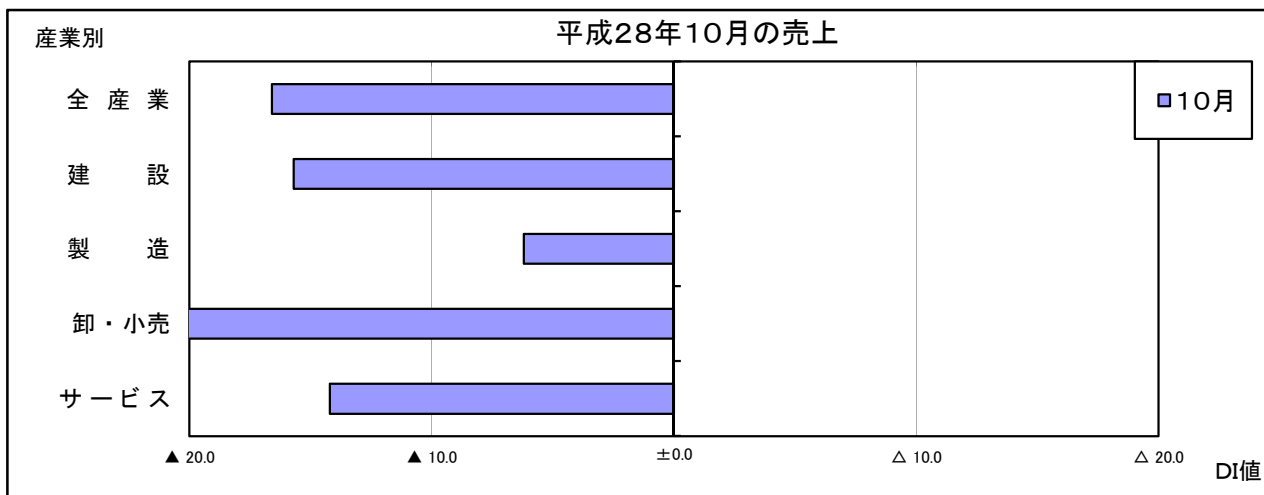
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.2(同▲22.2)、卸小売業▲41.6(同▲26.0)、建設業▲15.7(同▲22.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.5(前月水準▲6.6)となり、マイナス幅が1.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△15.7(同▲11.1)であり、プラス幅が△26.8ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲26.0(同▲20.8)、製造業▲6.2(同▲5.5)である。

平成28年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲27.1	▲20.2	▲23.6	▲28.5	▲22.6	▲16.6	▲5.5(▲6.6)
建設	▲4.3	▲4.5	▲14.2	▲13.0	▲22.2	▲15.7	△15.7(▲11.1)
製造	▲72.2	▲47.0	▲58.8	▲47.0	▲22.2	▲6.2	▲6.2(▲5.5)
卸・小売	▲44.0	▲40.7	▲34.7	▲56.5	▲41.6	▲26.0	▲26.0(▲20.8)
サービス	△20.0	△30.7	△20.0	△14.2	△6.6	▲14.2	±0.0(△20.0)



【平成28年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲24.0)となり、マイナス幅が1.0ポイント拡大した。

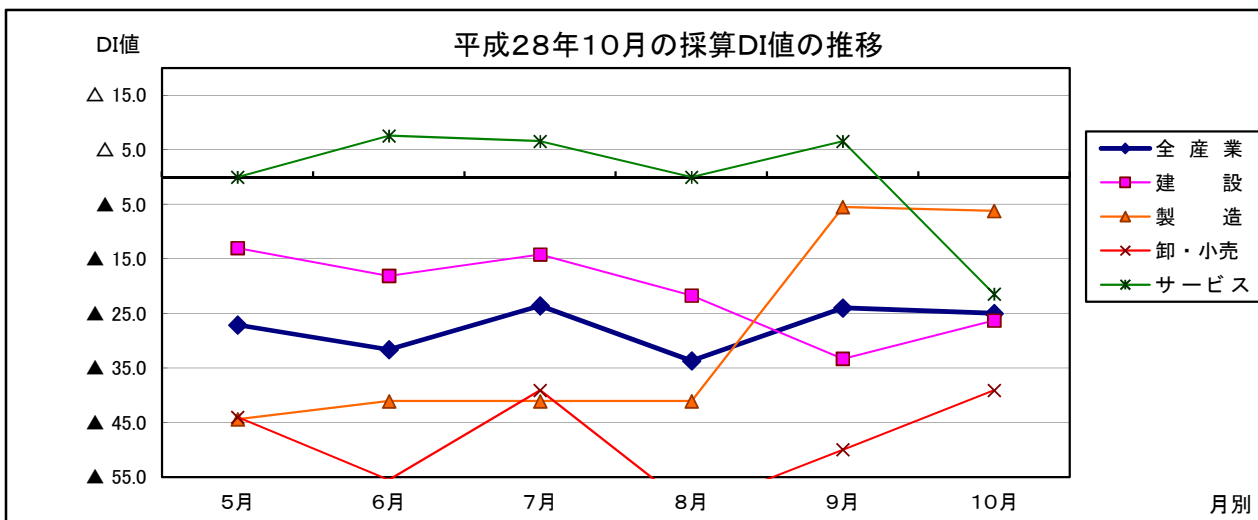
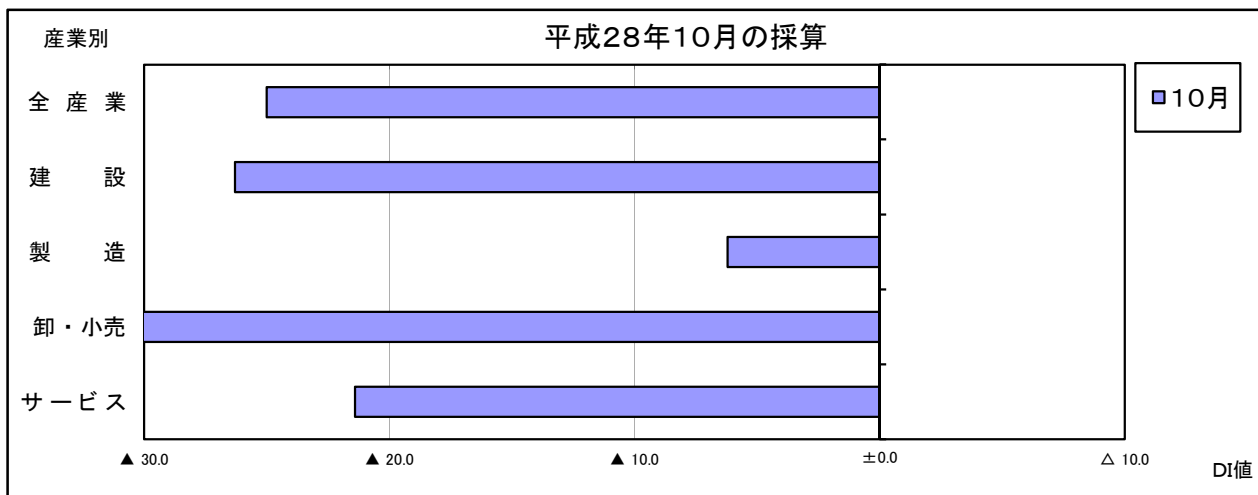
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.1(同▲50.0)、建設業▲26.3(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲21.4)であり、マイナス幅が▲28.0ポイントと大幅に悪化した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲6.2(同▲5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.8(前月水準▲14.6)であり、マイナス幅が6.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0.0(同▲16.6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲25.0(同▲11.1)、卸小売業▲47.8(同▲37.5)である。

平成28年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲27.1	▲31.6	▲23.6	▲33.7	▲24.0	▲25.0	▲20.8(▲14.6)
建設	▲13.0	▲18.1	▲14.2	▲21.7	▲33.3	▲26.3	±0.0(▲16.6)
製造	▲44.4	▲41.1	▲41.1	▲41.1	▲5.5	▲6.2	▲25.0(▲11.1)
卸・小売	▲44.0	▲55.5	▲39.1	▲60.8	▲50.0	▲39.1	▲47.8(▲37.5)
サービス	±0.0	△7.6	△6.6	±0.0	△6.6	▲21.4	±0.0(△20.0)



【平成28年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.7(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が11.7ポイント拡大した。

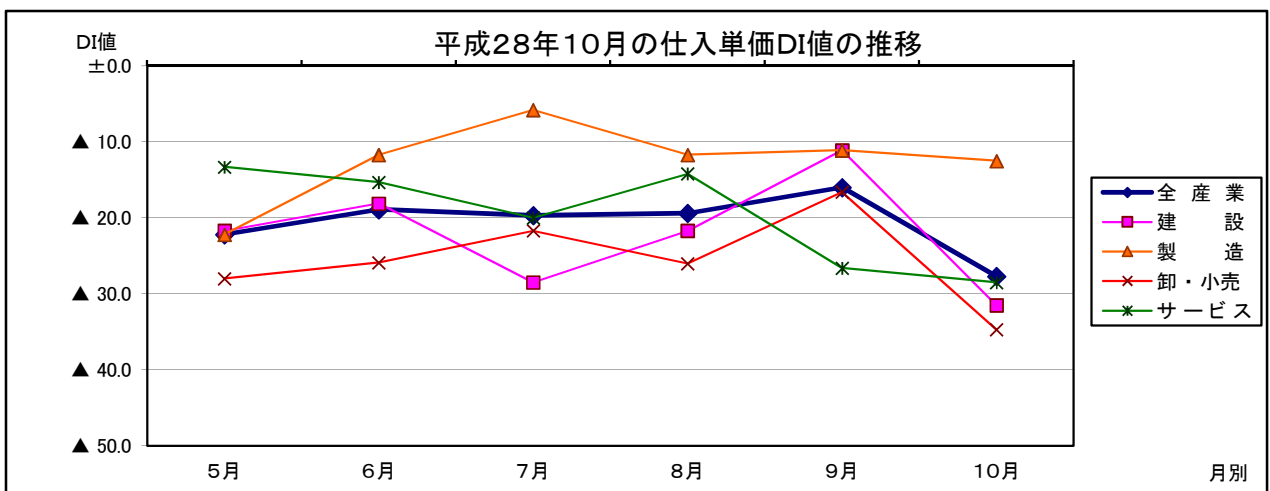
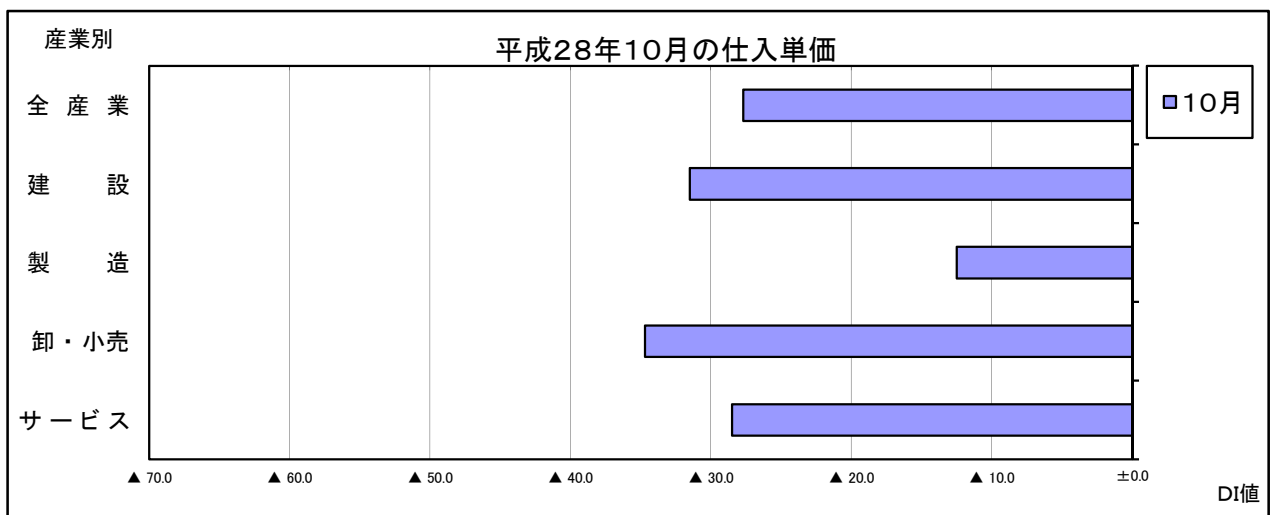
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.5(同▲11.1)、卸小売業▲34.7(同▲16.6)、サービス業▲28.5(同▲26.6)、製造業▲12.5(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.4(前月水準▲17.3)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲12.5(同▲16.6)、建設業▲10.5(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲30.4(同▲20.8)、サービス業▲21.4(同▲20.0)である。

平成28年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲22.2	▲18.9	▲19.7	▲19.4	▲16.0	▲27.7	▲19.4(▲17.3)
建設	▲21.7	▲18.1	▲28.5	▲21.7	▲11.1	▲31.5	▲10.5(▲11.1)
製造	▲22.2	▲11.7	▲5.8	▲11.7	▲11.1	▲12.5	▲12.5(▲16.6)
卸・小売	▲28.0	▲25.9	▲21.7	▲26.0	▲16.6	▲34.7	▲30.4(▲20.8)
サービス	▲13.3	▲15.3	▲20.0	▲14.2	▲26.6	▲28.5	▲21.4(▲20.0)



【平成28年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△22. 2(前月水準△9. 3)となり、プラス幅が12. 9ポイント拡大した。

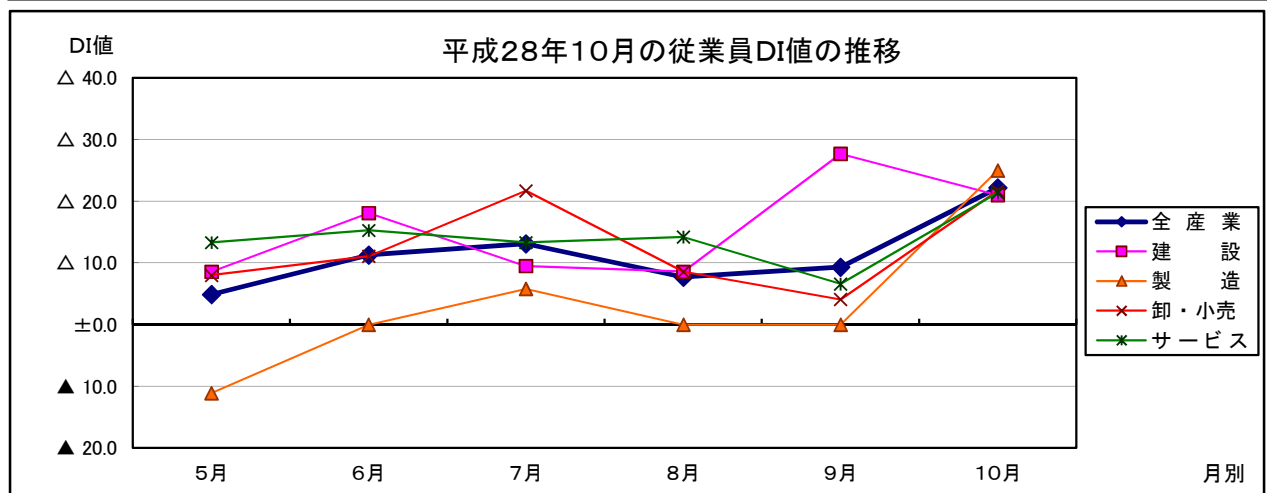
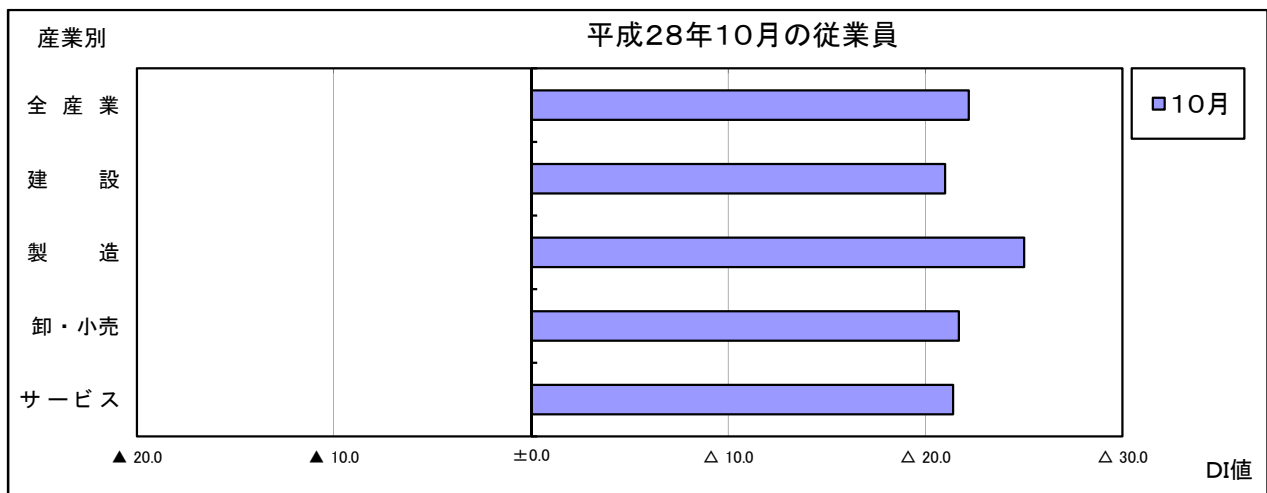
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△25. 0(同±0. 0)、サービス業△21. 4(同△6. 6)、卸小売業△21. 7(同△4. 1)、であり、特に製造業では、プラス幅が△25. 0ポイントと大幅に改善した。プラス幅が縮小した業種は、建設業△21. 0(同△27. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△20. 8(前月水準△10. 6)であり、プラス幅が10. 4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△25. 0(同△5. 5)、サービス業△21. 4(同△6. 6)、卸小売業△17. 3(同△8. 3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△21. 0(同△22. 2)、である。

平成28年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	△ 4.9	△ 11.3	△ 13.1	△ 7.7	△ 9.3	△ 22.2	△ 20.8(△ 10.6)
建設	△ 8.6	△ 18.1	△ 9.5	△ 8.6	△ 27.7	△ 21.0	△ 21.0(△ 22.2)
製造	▲ 11.1	±0.0	△ 5.8	±0.0	±0.0	△ 25.0	△ 25.0(△ 5.5)
卸・小売	△ 8.0	△ 11.1	△ 21.7	△ 8.6	△ 4.1	△ 21.7	△ 17.3(△ 8.3)
サービス	△ 13.3	△ 15.3	△ 13.3	△ 14.2	△ 6.6	△ 21.4	△ 21.4(△ 6.6)



【平成28年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.9(前月水準▲5.3)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大した。

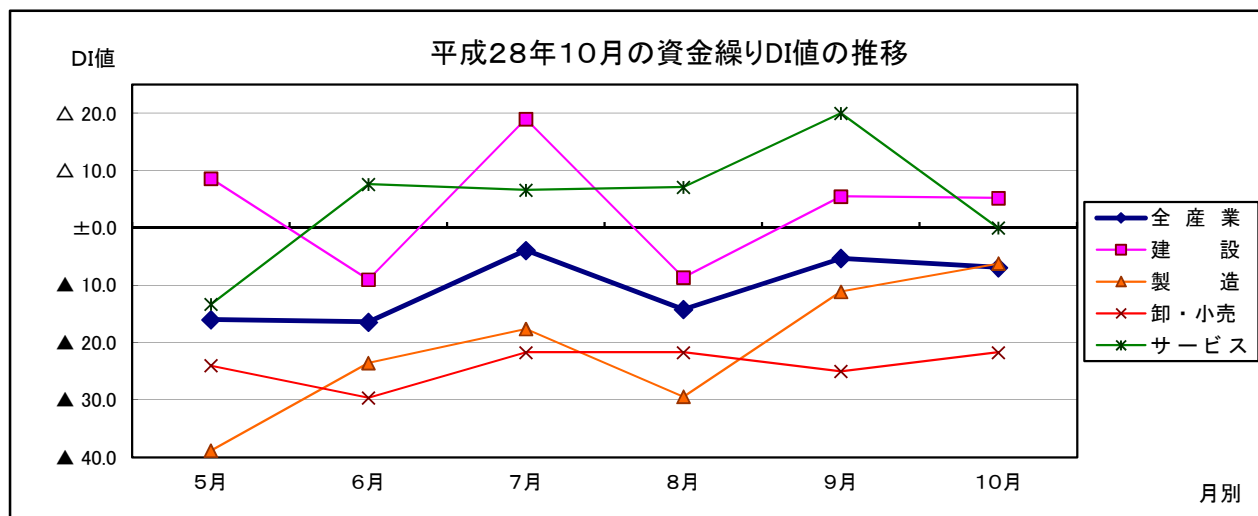
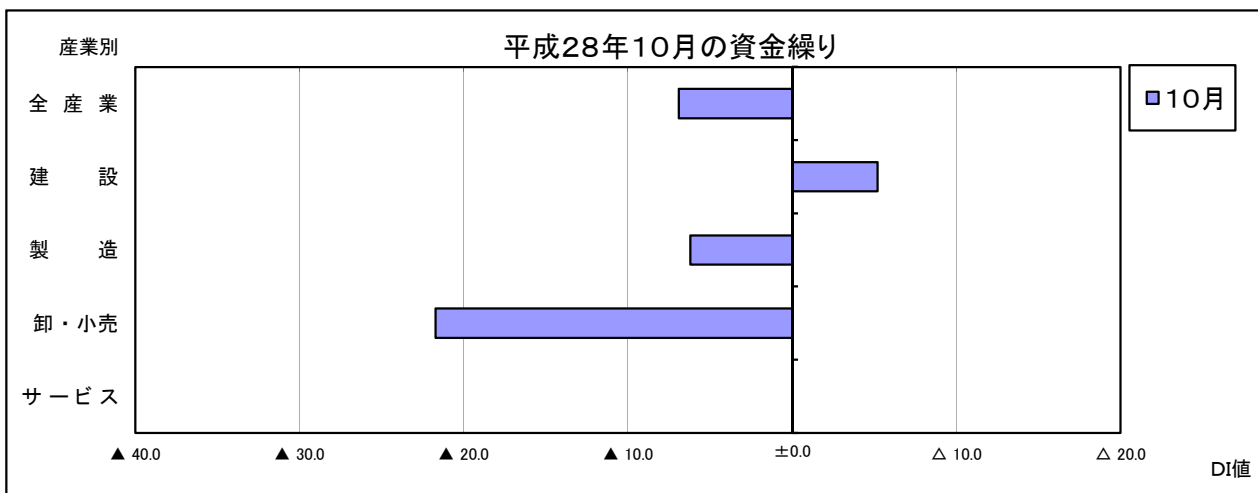
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲6.2(同▲11.1)、卸小売業▲21.7(同▲25.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△20.0)、建設業△5.2(同△5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲5.3)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△10.5(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7.1(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲11.1)、卸小売業▲21.7(同▲16.6)である。

平成28年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲16.0	▲16.4	▲3.9	▲14.2	▲5.3	▲6.9	▲6.9(▲5.3)
建設	△8.6	▲9.0	△19.0	▲8.6	△5.5	△5.2	△10.5(±0.0)
製造	▲38.8	▲23.5	▲17.6	▲29.4	▲11.1	▲6.2	▲18.7(▲11.1)
卸・小売	▲24.0	▲29.6	▲21.7	▲21.7	▲25.0	▲21.7	▲21.7(▲16.6)
サービス	▲13.3	△7.6	△6.6	△7.1	△20.0	±0.0	△7.1(△13.3)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 16.6	▲ 5.5	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 27.7	▲ 19.4	△ 22.2	△ 20.8
建設	▲ 15.7	△ 15.7	▲ 26.3	±0.0	▲ 31.5	▲ 10.5	△ 21.0	△ 21.0
製造	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
卸・小売	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 39.1	▲ 47.8	▲ 34.7	▲ 30.4	△ 21.7	△ 17.3
サービス	▲ 14.2	±0.0	▲ 21.4	±0.0	▲ 28.5	▲ 21.4	△ 21.4	△ 21.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.2	▲ 23.6	▲ 6.9	▲ 6.9
建設	±0.0	▲ 5.2	△ 5.2	△ 10.5
製造	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 18.7
卸・小売	▲ 34.7	▲ 52.1	▲ 21.7	▲ 21.7
サービス	▲ 28.5	▲ 14.2	±0.0	△ 7.1

【平成28年10月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	鳥取地震も発生して、耐震補強に関心を示す人が増えてきている。	鳥取地震	一般土木建築工事業
	年明けに新しい畳で家族や親戚を迎えたいという需要から、個人宅からの注文が増加。今後も引き続き受注が好調になる事に期待したい。	個人需要増加	内装工事業
	長雨の影響で10月の売上は大幅な減少となった。工期を延ばす事は出来ず、天気が回復次第工事を再開するため、施工現場が重なり今までに無い人手不足になっている。現場近隣の状況によって施工時間が決められており、時間外・日曜の施工も出来ず、人手不足は解消されそうに無い。突発的な工事依頼やオリンピック関連の案件も人員確保が出来ず、受ける事が出来ない。	天候不順 人手不足	その他の職別工事業
	景気回復の実感はなく、これから年末に向けて不安感がある。太陽光発電、器具のLED化も足踏みの状況。	先行き不安 景況悪化	電気工事業
製造業	オリンピック景気のような要因が無い限りは大きな設備投資に動ける状況にはならないと思われる。インバウンドに関してどのようなアプローチが出来るか模索中。	インバウンド 設備投資低調	印刷業
	既存の受注は低迷するが、新製品・新規先のニーズは増加。ニーズ・物の動きはあるものの、それに対しどの様にアプローチして行くか、HP、展示会、営業等を通じて、如何にして選択される企業になれるかが重要である。	受注低下	金属素形材製品製造業
	五月人形の部品、仏具の部品の受注が多かったことで、エッチング部門は連日多忙だった。工業製品も増加傾向だが、新規は少ない。	受注増加	その他の金属製品製造業
	業務内容は常に新規の作成が多く、受注が安定していないので先行きは見通せない。年間トータルで結果を把握しているが、現在のところは概ね良好である。	先行き不安	印刷業
	一般事務職の中途採用(1名)を行ったところ、1週間で8名の応募があり、すぐに内定を出す事が出来た。	人材雇用	一般産業用機械・装置製造業
	業界全体に受注減、又、景気後退感がある。	受注低下 先行き不安	特殊産業用機械
卸小売	客単価はやや上昇したが客数は減少している。業況は悪化する一方で衣料品不況は深刻である。メーカーは秋物衣料を生産調整しているが、かなり在庫を残した模様。	売上減少 景況悪化 生産調整	婦人・子供服小売業
	衣料品全体は9月末駅前百貨店閉店セールの影響が残る10月スタートの中、15日頃までの売上は伸び悩みも、月末気温低下もあり感謝セールで売上回復傾向となった。食料品は葉物野菜中心に価格が高騰し、お客様からも高いという声が多い。カット野菜、冷凍野菜等の売上は多少上がるも全体的には不況状況。柏モディが月末に開店し、柏駅南口側への集客が見込まれるため、柏駅東口側の店舗の集客が課題。	仕入価格高騰(農水産物) 競争激化	その他の各種商品小売業
	天候不順が尾を引いたまま取り戻せなかった。クリスマス商戦に期待したい。	天候不順 売上減少	その他の各種商品小売業
	悪天候のため仕入単価が上昇。特に苺が高騰し品薄状態に。	天候不順 売上減少 仕入価格高騰(農水産物)	菓子・パン小売業
	関東での曇天が続いており、野菜全般に生育遅れがあり、野菜の入荷が激減している。単価は高値取引の商品もあり、消費者の期待に応えられる入荷状況になっていない。秋は行楽シーズンであり、イベントも多くなり消費が拡大する時期だが、大変厳しい状況にある。産地情報をまめに取り、消費者の期待に応えられるように努めたい。	天候不順 仕入価格高騰(農水産物)	食料・飲料卸売業
	天候の影響で開花の遅れ、品薄が発生。仕入れ値も暴騰している。	天候不順 仕入価格高騰(農水産物)	花・植木小売業
サービス業	大型店の出店が相次ぎ、特売セールが始まり来店客が激減。また、清潔な新店舗は主婦層にも人気で、雇用を奪われている。また、野菜等の食材の値上がりがあり、個人消費が冷え込む中で、より一層利益の確保が難しくなっている。	大型店出店 競争激化 仕入価格高騰(農水産物)	その他の飲食料品小売業
	各企業とも団体旅行の検討、申し込みのタイミングが間際化している。一方で訪日インバウンドが好調。インバウンドで国内大都市のホテル、国際線航空座席が早々に抑えられてしまい、ますます手配が困難になっている。日本全国の名旅館、ホテル、料亭がつくる「おせち料理」販売が好調。企業の社内インセンティブ、福利厚生での利用も。比較的多くの取引先(人材派遣や福祉系)では、人材確保、人材定着、人材育成に、課題感を持っている。	インバウンド	旅行業
	不動産売買の件数は減少。問い合わせ数も減少し、価格は横ばい状況。現在の景気と連動して、不動産業界も景況はよくない。	景況悪化	不動産管理業
	そごう柏店閉店の影響を悲観せず、個々の企業が力を発揮できる環境づくりが必要だと思われる。	そごう柏店閉店	不動産賃貸業
	年々厳しい状況が続いており、大企業の設備投資も閉塞感がある。中小企業のアイデア・独自性も出尽くした感があり、新たなビジネスモデルの構築が求められているように感じる。	設備投資低調 先行き不安	ソフトウェア業

◎天候不順

各業種より、「長雨の影響で10月の売上は大幅な減少となった。工期を延ばす事は出来ず、天気が回復次第工事を再開するため、施工現場が重なり今までに無い人手不足になっている。現場近隣の状況によって施工時間が決められており、時間外・日曜の施工も出来ず、人手不足は解消されそうに無い。突発的な工事依頼やオリンピック関連の案件も人員確保が出来ず、受ける事が出来ない。」(その他の職別工事業)、「天候不順が尾を引いたまま取り戻せなかった。クリスマス商戦に期待したい。」(その他の各種商品小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰(農水産物)

各業種より、「悪天候のため仕入単価が上昇。特に苺が高騰し品薄状態に。」(菓子・パン小売業)、「関東での曇天が続いており、野菜全般に生育遅れがあり、野菜の入荷が激減している。単価は高値取引の商品もあり、消費者の期待に応えられる入荷状況になっていない。秋は行楽シーズンであり、イベントも多くなり消費が拡大する時期だが、大変厳しい状況にある。産地情報をまめに取り、消費者の期待に応えられるように努めたい。」(食料・飲料卸売業)、「天候の影響で開花の遅れ、品薄が発生。仕入れ値も暴騰している。」(花・植木小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安

各業種より、「業務内容は常に新規の作成が多く、受注が安定していないので先行きは見通せない。年間トータルで結果を把握しているが、現在のところは概ね良好である。」(印刷業)、「業界全体に受注減、又、景気後退感がある。」(特殊産業用機械)、「年々厳しい状況が続いており、大企業の設備投資も閉塞感がある。中小企業のアイデア・独自性も出し尽くした感があり、新たなビジネスモデルの構築が求められているように感じる。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。











平成28年10月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲25.5で柏の方がマイナス幅が3.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲20.3で柏の方がマイナス幅が3.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲22.7で柏の方がマイナス幅が2.3ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.7に対し、「CCI-LOBO」が▲20.9で柏の方がマイナス幅が6.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、建設業と卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△22.2に対し、「CCI-LOBO」が△16.8で柏の方がプラス幅が5.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.9に対し、「CCI-LOBO」が▲13.0で柏の方がマイナス幅が6.1ポイント小さい。業種別では、全ての業種において「柏の景気」の方が良く、建設業、サービス業では10ポイント以上良い。











平成28年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 ±0.0	 ▲ 25.0	 ▲ 34.7	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 25.5	 ▲ 12.9	 ▲ 18.1	 ▲ 47.6	 ▲ 20.7


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.6	 ▲ 15.7	 ▲ 6.2	 ▲ 26.0	 ▲ 14.2
CCI-LOBO	 ▲ 20.3	 ▲ 10.3	 ▲ 13.7	 ▲ 39.3	 ▲ 18.2


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 ▲ 26.3	 ▲ 6.2	 ▲ 39.1	 ▲ 21.4
CCI-LOBO	 ▲ 22.7	 ▲ 14.7	 ▲ 18.7	 ▲ 39.6	 ▲ 18.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.7	 ▲ 31.5	 ▲ 12.5	 ▲ 34.7	 ▲ 28.5
CCI-LOBO	 ▲ 20.9	 ▲ 14.6	 ▲ 10.1	 ▲ 23.9	 ▲ 30.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 22.2	 △ 21.0	 △ 25.0	 △ 21.7	 △ 21.4
CCI-LOBO	 △ 16.8	 △ 19.7	 △ 5.5	 △ 26.0	 △ 21.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.9	 △ 5.2	 ▲ 6.2	 ▲ 21.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 13.0	 ▲ 9.0	 ▲ 9.9	 ▲ 24.7	 ▲ 12.1

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(10月の調査結果のポイント)

調査期間：平成28年10月24日～11月10日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数72件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲33.3	±0.0	▲61.1	▲60.0	▲6.6
6月	▲27.8	▲9.0	▲35.2	▲51.8	±0.0
7月	▲23.6	±0.0	▲47.0	▲39.1	▲6.6
8月	▲33.7	▲17.3	▲23.5	▲65.2	▲21.4
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
見通し	▲23.6	▲5.2	▲12.5	▲52.1	▲14.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し

「柏市」の業況

業況D Iは横ばい推移。先行きは不透明感から依然として慎重な見方が続く。

10月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲20.0)となり、マインスマ幅が2.2ポイント拡大した。業種別では、前月水準と比べて、マインスマ幅からプラスに転じた業種は建設業±0.0(同▲11.1)である。マインスマ幅が縮小した業種は、卸小売業▲34.7(同▲50.0)である。プラスからマインスマに転じた業種は、サービス業▲28.5(同▲13.3)で、マイ

ナス幅が41.8ポイントと大幅に悪化した。マインスマ幅が拡大した業種は、製造業▲25.0(同▲16.6)である。

【建設業】からは、「鳥取地震も発生して、耐震補強に関心を示す人が増えてきている。」(一般土木建築工事業)、「年明けに新しい畳で家族や親戚を迎えたいという需要から、個人宅からの注文が増加。今後も引き続き受注が好調になる事に期待したい。」(内装工事業)、「景気回復の実感は無く、これから年末に向けて不安感がある。太陽光発電、器具のLED化も足踏みの状況。」(電気工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「オリンピック景気のような要因が無い限りは大きな設備投資に動ける状況にはならないと思われる。」(印刷業)、「既存の受注は低迷するが、新製品・新規先のニーズは増加。ニーズ・物の動きはあるものの、それに対しどの様にアプローチして行くか、HP、展不会、営業等を通じて、如何にして選択される企業になれるかが重要である。」(金属成形品製造業)、「五月人形の部品、仏具の部品の受注が多かったので、エッチング部門は連日多忙だ

った。工業製品も増加傾向だが、新規は少ない。」(その他の金属製品製造業)、「一般事務職の中途採用(1名)を行ったところ、1週間で8名の応募があり、すぐに内定を出す事が出来た。」(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「客単価はやや上昇したが客数は減少している。業況は悪化する一方で衣料品不況は深刻である。」(婦人・子供服小売業)、「衣料品全体は15日頃までの売上は伸び悩むも、月末気温低下もあり感謝セールで売上回復傾向となった。食料品は葉物野菜中心に価格が高騰し、お客様からも高いという声が多い。カット野菜、冷凍野菜等の売上は多少上がるも全体的には不況状況。柏モディが月末に開店し、柏駅南口側への集客が見込まれるため、柏駅東口側の店舗の集客が課題。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「大型店の出店が相次ぎ、特売セールが始まり来店客が激減。また、野菜等の食材の値上りがあり、個人消費が冷え込む中で、より一層利益の確保が難しくなっている。」(その他の飲食料品小売業)、「各企業とも団体旅行の検討、申し込み

のタイミングが間際化している。一方で訪日インバウンドが好調。人材派遣や福祉系の取引先では、人材確保、人材定着、人材育成に、課題感を持つている。」(旅行業)、「不動産売買の件数は減少。問い合わせ数も減少し、価格は横ばい状況。現在の景気と連動して、不動産業界も景況はよくない。」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

10月の景気キーワード

◎天候不順

各業種より、「長雨の影響で10月の売上は大幅な減少となった。工期を延ばす事は出来ず、天気が回復次第工事を再開するため、施工現場が重なり今までに無い人手不足になっている。」(その他の職別工事業)、「天候不順が尾を引いたまま取り戻せなかった。クリスマス商戦に期待したい。」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入価格高騰(農水産物)

各業種より、「悪天候のため仕入単価が上昇。特に苺が高騰し品薄状態に。」(菓子・パン小売業)、「関東での曇天が続いており、野菜全般に生育遅れがあり、野菜全般に生荷が激減している。単価は高値取引の商品もあり、消費者の期待に答えられる入荷状

況になっていない。産地情報をまめに取り、消費者の期待に答えられるように努めたい。」(食料・飲料卸売業)、「天候の影響で開花の遅れ、品薄が発生。仕入れ値も暴騰している。」(花・植木小売業)などのコメントが寄せられた。

◎先行き不安

各業種より、「業務内容は常に新規の作成が多く、受注が安定していないので先行きは見通せない。」(印刷業)、「業界全体に受注減、又、景気後退感がある。」(特殊産業用機械)、「年々厳しい状況が続いており、大企業への設備投資も閉塞感がある。中小企業のアイディア・独自性も出し尽くした感があり、新たなビジネスモデルの構築が求められているように感じる。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

CCI・LBOとの比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI・LBO」が▲25.5で柏の方がマインスマ幅が3.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業であり、両業種ともに10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、サービス業である。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成28年10月17日～21日

調査対象：全国の423商工会議所が2988企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、一進一退。先行きは持ち直しを見込むも、慎重な姿勢崩れず

10月の全産業合計の業況DIは、▲25.5と、前月から+2.3ポイントの改善。住宅など民間工事や公共工事が持ち直したほか、自動車や電子部品の関連業種で堅調な動きを指摘する声があった。他方、個人消費の低迷が続くなか、人手不足や最低賃金改定による人件費の上昇、9月の天候不順を背景とした農水産物の価格高騰が、小売業、飲食業の業況感を悪化させるなど、中小企業のマインドは依然として鈍く、一進一退の動きとなっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲22.6（今月比+2.9ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。住宅投資や公共工事の増加、年末年始の商戦を契機とする消費拡大への期待感がうかがえる。一方、消費の一段の悪化、円高や海外経済減速の長期化を懸念する声は多く、人手不足や人件費の上昇などの課題を抱える中小企業においては、先行きへの

慎重な姿勢が続く。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、製造業、サービス業で改善、その他の2業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】

「県や市町村からの公共工事の新規発注が始め、売上は改善した。今後の本格的な発注増に期待している」（土木工事業）

「台風など災害復旧の緊急工事の受注が多く、売上は改善した」（一般工事業）

「電気通信工事の受注が減少し、売上は悪化した。反面、太陽光関連工事が増えていたため、設備投資を実施して、今後はそちらに注力したい」（電気工事業）

【製造業】

「スマートフォンなどの生産増加の影響もあり、受注は順調で、売上は改善傾向にある。年内はこの傾向を維持できる見込み」（電子部品製造業）

「異なる車種間でも同一の部品を使えるようにしようとする動きが自動車業界で進んでいる。複数の車種で共

有化できる部品を扱う当社は販路が拡大し、売上が伸びた」（自動車部品製造業）

【卸売業】

「自動車関連を中心に取引先からの受注は多いが、値下げ要請が厳しく、採算割れの案件が増えている」（鉱物金属卸売業）

「台風や長雨の影響が尾を引いており、青果物の仕入価格が非常に高い。仕入価格上昇分を一部しか販売価格に転嫁できていないため、採算は悪化した。高値による消費者の青果物離れも不安である」（農産物卸売業）

【小売業】

「高額品の低迷に加え、インバウンド需要も減少しており、業況は悪化した。今月の気温が高めに推移していることもあり、秋冬物衣料の売上も精彩を欠いている」（百貨店）

「最低賃金の改定により、パートの賃金が底上げされ、人件費上昇につながった。パートの雇用人数も多いため、大幅に収益が圧迫されている」（衣料品小売業）

【サービス業】

「熊本地震の影響で中止になっていた宴会が復活し、業況

は改善した。年末の忘年会等の予約も活発である」（飲食業）

「最低賃金の上昇もあって人件費は増えたが、サービス料金に全く転嫁できていない」（清掃サービス業）

「Webサイトの構築やバナー更新など、ネットで商品販売を行う企業からの受注が増え、売上は改善傾向にある」（ソフトウェア業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲22.8	▲21.0	▲13.2	▲25.1	▲36.2	▲20.4
6月	▲24.8	▲22.5	▲22.1	▲30.4	▲39.9	▲12.5
7月	▲24.5	▲22.6	▲20.8	▲27.5	▲37.2	▲16.9
8月	▲24.9	▲17.8	▲20.2	▲33.1	▲38.2	▲18.9
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
見通し	▲22.6	▲15.7	▲16.8	▲24.9	▲38.6	▲18.1